

平成 29 年度

東京薬科大学 新入教員のためのミニ教育ワークショップ

報告書



平成 29 年 4 月

FD実施委員会

目次

プログラム	p. 2
参加者名簿	p. 3
当日の様子	p. 4～8
プロダクト	p. 9～13
第1日目・第2日目の評価結果	p. 14～15
教育評価アンケート・総合アンケート 結果	p. 16
学生FD委員会しゃべり場報告書	p. 17～21
おわりに	p. 22

プログラム

日 時：平成29年4月8日（土）、4月15日（土）

場 所：東京薬科大学 教育5号館3階（P会場 5302講義室、S会場 5303講義室・5305講義室）

ディレクター：笹津 備規 学長、太田 伸 副学長

主 催：全学FD実施委員会（委員代表 薬学部 高木教夫教授、生命科学部 高橋勇二教授）

参 加 者：15名（薬学部10名・生命科学部5名）

タスクフォース：4名（薬学部 大野尚仁教授、稲葉二郎教授、田中祥子助教 ・ 生命科学部 高橋勇二教授）

実 施 規 模：1P2S P：Plenary Session(全体集会)、S：(SGD；Small Group Discussion)

①2017年4月8日（土）

時間	内容	場所
9:00	スタッフ集合（薬学部タスク：大野、稲葉、田中、生命科学部：高橋）	P会場
9:45	参加者集合 開会式、総合プレアンケート、副学長挨拶、WS趣旨説明（3ポリ、PDCA） 司会、趣旨説明など：大野	P会場
10:30	SGD1説明（KJ法・お絵かき） テーマ：大学教育／高等教育の問題点 KJ法説明：大野	P会場
10:45	SGD1開始	S会場
12:00	発表会（各5分＋総合討論15分） 司会：大野	P会場
12:30	昼食 グループごとにテーブルを囲んで	参加者：アトリウム タスク：DR棟3階
13:30	自己紹介、各自3分、パワーポイント （★事前準備★ パワポ表紙入れて6枚以内、前日までに提出。当日は1台のパソコンで連続して映写しながら各自が説明。内容自由）	P会場
14:15	SGD2説明（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの運用に関する補足説明、本学のDPの一つを選び、それに関わる科目の一つ（複数）設定し、カリキュラムを作成）説明：稲葉	P会場
14:45	SGD2開始	S会場
15:30	（コーヒープレイク 約15分）	
16:30	発表会（各7分＋総合討論15分） 司会：稲葉	P会場
17:00	APプログラムについて（15分） 説明：高橋 課題の説明（10分）と配布 説明：大野	P会場
17:30	第一日目のアンケート、事務連絡	P会場
18:00	解散	

②2017年4月15日（土）

時間	内容	場所
9:00	スタッフ集合	P会場
9:30	参加者集合、二日目資料配付、課題の結果発表、第一日目のアンケート結果発表 司会：大野	P会場
10:00	SGD3説明 方略の作成について（20分）説明：稲葉 反転授業、PBLなどについて（15分）説明：高橋	P会場
10:30	SGD3開始 方略の作成	S会場
12:00	発表会（各7分、総合討論15分） 司会：稲葉	P会場
12:30	昼食 グループごとにテーブルを囲んで	参加者：アトリウム タスク：DR棟3階
13:30	学生FD委員会の発表と共同の活動 生命科学部学生FD委員会参加 説明：高橋	P会場
14:30	SGD4説明 評価について 教育プレアンケート 説明：田中	P会場
15:00	SGD4開始 ルーブリック など	S会場
16:00	（コーヒープレイク 約15分）	
17:00	発表会（各7分、総合討論15分）補足：評価の現実の姿の紹介 司会：田中	P会場
17:30	大学教育／高等教育の問題点 の対応策 意見交換 第二日目のアンケート、総合・教育ポストアンケート、閉会式、総評（学長・副学長） 司会：大野	P会場
18:30	解散	

参加者名簿

Aグループ				
	氏名	学部	所属・役職	備考
1	はらだ ひろのり 原田 浩徳	生命科学部	腫瘍医科学研究室・教授	8日 3限授業 15日 欠席
2	みわ ひろゆき 三輪 裕幸	薬学部	病態生理学教室・助教	
3	さくらい ひろこ 櫻井 浩子	薬学部	生命・医療倫理学研究室・准教授	
4	かぎやま ゆうき 鍵山 侑希	生命科学部	腫瘍医科学研究室・助教	
5	こくぶん ひでや 国分 秀也	薬学部	薬学実務実習教育センター・准教授	
6	つねおか やよい 恒岡 弥生	薬学部	公衆衛生学教室・助教	
7	ますだ ゆか 増田 由佳	薬学部	第3英語研究室・准教授	

Bグループ				
	氏名	学部	所属・役職	備考
1	おおしま としゆき 大嶋 利之	薬学部	衛生化学教室・嘱託助教	
2	たにぐち あつひこ 谷口 敦彦	薬学部	薬品化学教室・講師	
3	やまうち じゅんじ 山内 淳司	生命科学部	分子神経科学研究室・教授	15日 欠席
4	もりおか かずひろ 森岡 和大	薬学部	生体分析化学教室・助教	
5	あきやま しげお 秋山 滋男	薬学部	薬学実務実習教育センター・講師	
6	さかうえ ひろあき 坂上 弘明	薬学部	生化学教室・助教	
7	はやし よしひろ 林 嘉宏	生命科学部	腫瘍医科学研究室・講師	8日 欠席
8	よつもと さとし 四元 聡志	生命科学部	免疫制御学研究室・助教	

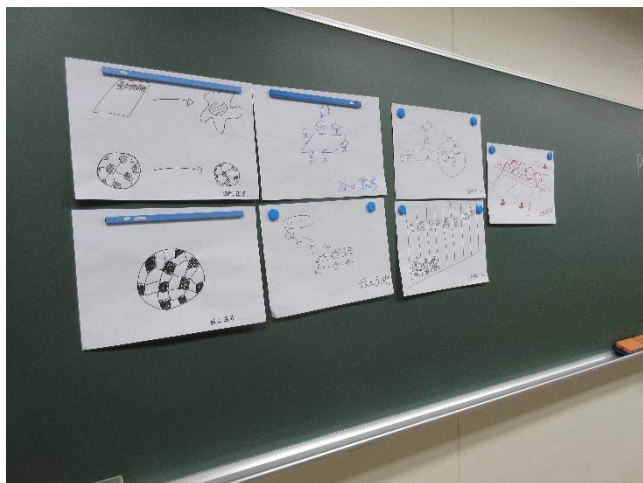
4月8日(土)第1日目

太田副学長よりご挨拶いただき、タスクフォースの大野先生より本ワークショップの趣旨、本学三つのポリシー、高大接続改革の必要性などについてオリエンテーションが行われた。



SGD1 KJ法・発表会

S会場に分かれ、お絵かきの自己紹介でアイスブレイクをしたのちにKJ法を用いて「大学教育・高等教育の問題点」について話し合いを行った。その後P会場でそれぞれのグループでまとめたものを発表した。



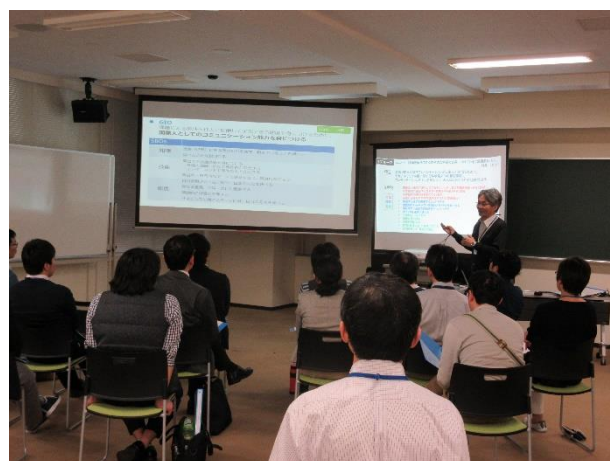
自己紹介

事前に作成したパワーポイントを用いて、1人3分間の自己紹介を行った。



SGD2 目標の作成・発表会

タスクフォースの稲葉先生より目標設定について説明があり、薬学部・生命科学部どちらのディプロマポリシー (DP) にも共通している、「課題解決力」「協働力」をテーマとし、カリキュラムプランニングを行った。SGD2 ではGIO、SBOs を作成し発表した。



発表会后に、タスクフォースの高橋先生より、本学が選定された「大学教育再生加速プログラム (AP)」の取り組みについての説明と事業への協力依頼があった。第1日目 (8日) のプログラムは終了し、最後に来週までの課題が出された。

課題・・・『大学教育学 京都大学高等教育研究開発推進センター編
学生主体形成論—学生の世界から大学教育を考える』

を読んでA4用紙1枚に感想をまとめる。

4月15日(土)第2日目

第1日目に出した課題の感想についてフィードバックと、第1日目のアンケート結果の発表があった。(アンケート結果はp.14~15に記載)

大学教育学レポート

- ・「大学教育」は、どうあるべきか
 - － 資格取得だけを目的とせず、それ以上を目指すよう指導。
 - － サイエンスは進歩、教科書は変わる。
 - － 授業評価再考、connected learningを視野に入れた体系的なカリキュラム設計
 - － 様々な考えを持つ学生たちに対応、モチベーション向上
 - － 学生と教員のコミュニケーション向上で不満解消
 - － 学生が大学とは何かを知り、自主的に学ぶように
 - － 答えのない様々な問題について考えさせる
 - － 学生のレディネスを整える
 - － スタディスキル向上の重要性
 - － 授業だけでは教育を網羅できない

SGD3 方略の作成・発表会

稲葉先生より学習方略について説明と、高橋先生より PBL や反転授業の紹介があった。SGD2では第1日目に作成した GIO、SBOs を再検討したのちに、方略の表を作成し、発表した。



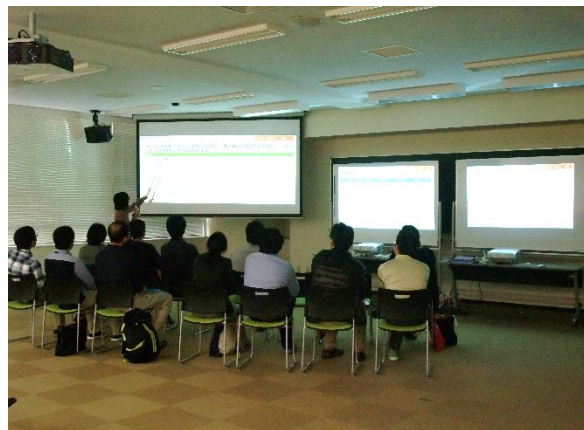
学生 FD 委員会との共同活動

生命科学部の学生 FD 委員と合同で、「理想の学生」というテーマで S G D を行った。全体の進行、グループのファシリテーター、タイムキーパーはすべて学生 FD 委員が務めた。グループで話し合った内容は、別途学生 FD 委員が報告書とした。(p. 17~21)



SGD4 評価・ルーブリックの作成・発表会

タスクフォースの田中先生より評価について説明があった。目標・方略の再検討を行ったのち、評価計画とルーブリック評価表を作成し発表を行った。(最終的なプロダクトは p. 9～13)



「大学教育・高等教育の問題点」の対応策 意見交換

第1日目に作成した「大学教育・高等教育の問題点」の対応策について意見交換を行った。問題点に対して、継続的に、委員会で検討・提案し、学部・大学レベルで具現化していくことが大切であると、セッションを締めくくった。

名札 一覧

A

- ・ 学生の質
 - ・ 汎用的能力
 - ・ 専門能力
 - ・ 学生の勉強
 - ・ 課外問題
- ・ 教務
 - ・ 財政
 - ・ 教授法
- ・ 入学の壁
- ・ 研究
- ・ 大学から社会へ(DP)

B

- ・ 学生のモチベーションをどう向上させるか
- ・ 学生の能力の問題
- ・ 学生側の意識の問題
- ・ 学生が大学に求めること
- ・ 個々の授業
- ・ 講義が一方通行
- ・ 教員の質とその向上
- ・ 高校と大学の差別化
- ・ 教育と研究の割合
- ・ 社会が必要とする人材が出せているのか



閉会式・総評

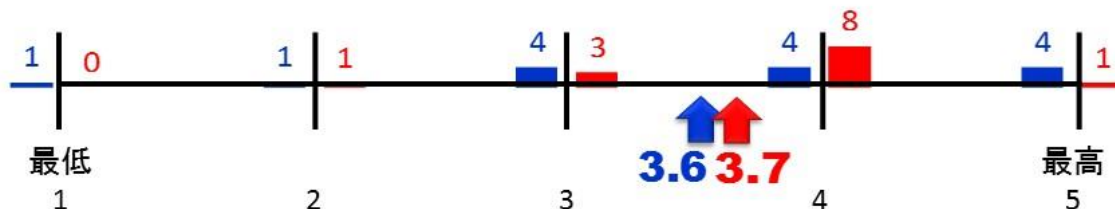
学長・副学長より総評をいただき、最後に集合写真を撮影し、ワークショップの全プログラムは終了した。



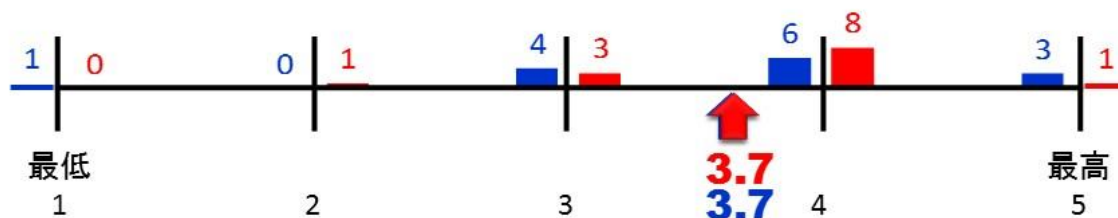
【学内資料】 A、Bグループ プロダクト (p.9~13)

第1日目・第2日目の評価（青...1日目15名、赤...2日目13名）

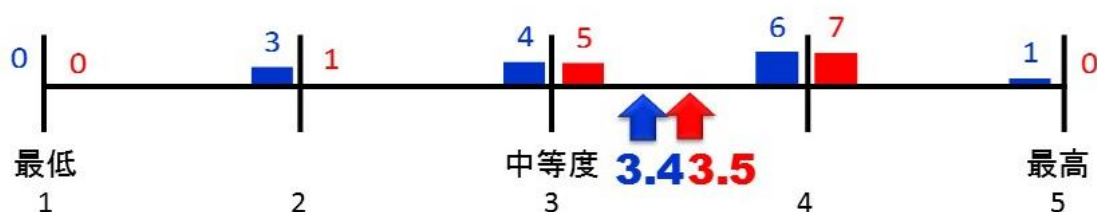
今日のワークショップの流れにスムーズに入り込めましたか。



今日、あなたは討議にどの程度参加しましたか。



今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか。



今日の世話人の仕事は良かったですか。



よく理解できたこと

【1日目】

- ・教育に対する本学の取り組み
- ・G I O、S B O s の関係
- ・カリキュラムについて、教育についての基本
- ・A P 事業について

【2日目】

- ・学生の評価形成の仕方
- ・ルーブリック評価表とその意義
- ・G I O、S B O s と評価の関連性
- ・S G D のふるまい方
- ・方略・評価の方法
- ・良いカリキュラムを作るためには、良く練られたS B O s が必要であること
- ・学習方略・評価計画・ルーブリックについての考え方や計画の立て方
- ・反転授業という方法があること
- ・適切な評価方法の選択
- ・評価法と Taxonomy の関係

あまり理解できなかったこと

【1日目】

- ・大学教育を良くする為の根本的な解決策
- ・A P 事業の具体的な内容について
- ・文部科学省の意図する評価方法
- ・知識を多く必要とする内容についての“学生主体”形式の是非
- ・教育と研究のバランス
- ・ディプロマポリシーについて

【2日目】

- ・複雑な評価基準設定の必要性
- ・学習目標・S B O s の分類
- ・ルーブリック評価表
- ・L S でグループに分けていく必要性
- ・知識の分け方
- ・全体的に難しいキーワードが多い
- ・一部項目の適切な評価方法

その他の意見・感想

【1日目】

- ・三役が、必ずしも明確に分かれていなかった、三役の説明がほしかった
- ・他分野の先生方との交流が有益であった
- ・飲み物のバラエティーが増えると良い

【2日目】

- ・授業評価に関するW S を企画して欲しい
- ・他の新任の先生方や主催者側の教職員の方々と知り合いになれたことがありがたかった
- ・違うグループの人とも交流する機会が欲しい
- ・教育・カリキュラムの立案、評価についてなど一連の流れを系統立てて学べる良い機会となった

教育評価アンケート

T_{TRUE} (正) F_{FALSE} (誤)

- | | | |
|------------------------------------|------------------------------------|--|
| ☒ T | F | 1. 学習目標を明確にすることは、教育評価の妥当性を高める。 |
| T | ☒ F | 2. 総括的評価とは、学習者の知識・技能・態度を総合した評価のことである。 |
| T | ☒ F | 3. 形成的評価とは、最新の知識を学習者がどの程度知っているかを評価することである。 |
| T | ☒ F | 4. チェックリストは知識を評価する際に適している。 |
| T | ☒ F | 5. 観察記録は、実習中に観察したことを学習者が記録したものである。 |
| T | ☒ F | 6. 同僚評価は、特に知識(認知領域)の評価に効果的である。 |
| ☒ T | F | 7. 技能(精神運動領域)の評価に評定尺度は有用である。 |
| ☒ T | F | 8. 学習者の能力向上の程度は、カリキュラムや教授法の評価の参考となる。 |
| ☒ T | F | 9. 測定すべき行動領域と評価法とが合致した評価は妥当性が高い。 |
| ☒ T | F | 10. 評価者を複数にすることで、技能の評価における信頼性を向上させることができる。 |

チーム

プレ ポスト

12	13
2	6
11	12
9	6
10	9
12	12
11	12
12	13
12	12
13	13

総合アンケート

プレ ポスト

賛成 どちらともいえない 反対

- | | | | | | |
|----|----|--|-----------------------|--|-----------------------|
| 11 | 12 | 1. カリキュラムとは、学科別時間配分表のことである。 | | | ☐ |
| 10 | 11 | 2. 教育目標は、教授者が何をなすべきかを明確に規定したものである。 | | | ☐ |
| 11 | 11 | 3. 学則で教育理念が示されていれば、教育の不十分な部分を容易に見える。 | | | ☐ |
| 13 | 12 | 4. 教育目標を設定しておかなくても、正しい評価は可能である。 | | | ☐ |
| 8 | 10 | 5. 知識を獲得するには、講義を聴くのが最良の方法である。 | | | ☐ |
| 4 | 6 | 6. 問題解決の教育には、指導者が問題解決の仕方を示さなくては学習者が問題解決能力を修得することはできない。 | | | ☐ |
| 3 | 2 | 7. 実習に先立って、十分に知識を教えておくことは必須である。 | | | ☐ |
| 13 | 11 | 8. 教授者が厳しければ厳しいほど、学習者はやる気を出す。 | | | ☐ |
| 9 | 10 | 9. 試験をしなくても、教育評価は可能である。 | ☐ | | |
| 1 | 1 | 10. 教育の改善を促進させるには、まず改善にとってのプラス因子を増やす方策が肝要である。 | | | ☐ |

【学内資料】しゃべり場報告書（p.17～21）

おわりに

このワークショップは、本学に着任されて間もない先生方に、本学の教員としての志を共有していただきたいとの思いから始められたものであり、教育の基本であるカリキュラム立案についてグループワーク等を通じて学んでいただいています。年度初めに開催することから、前年度途中に入職された先生方にもご参加いただいております。一昨年と同様に土曜日に2週続きで開催しました。既に、授業開始日を過ぎており、一部の先生方には、授業と掛け持ちしながらワークショップにご参加いただくことになりました。ご多忙にもかかわらず15名の先生方に参加していただき、充実した時間を共有することができました。プログラムはカリキュラム立案を中心に据え、その他、毎年様々な取り組みを行ってきました。今年度は、学生FD委員会メンバーが参加し、教員学生の合同SGDを行うことができました。また、全学的な活動として行っているAPプログラムを紹介し、積極的参加を呼びかけました。学長、副学長、両学部長、FD委員なども加わり、学内の様々な教室・研究室の教員が集い、両学部の交流ならびに学内全体を知る上でも有意義な時間とすることができました。

グループ討議のテーマは、3ポリシーの法制化に伴い大学に求められる活動を意識し、ディプロマポリシー(DP)を見据えた人材養成のためのカリキュラムプランニングとしました。DPに到達するためにはカリキュラムマップ・ツリーを意識したカリキュラム立案が必要とされます。今年度は、両学部のDPで共通して取り上げられている、「課題解決力」「協働力」を醸成するためのプログラム立案として、特に1年次生対象の科目内容の立案を行いました。いずれも、本学で実際に懸案となっている内容であり、討議は活発に行われ、素晴らしいカリキュラムが立案されました。前者については、「ディベート能力を身に着けること」を目標として掲げSGDやプレゼンテーションを行う授業設計ができました。後者については、英語での科学プレゼンテーションができるようになることを目標として掲げ、演習やSGDの充実した授業設計ができました。DPへの到達のためには、学年進行とともに複数科目を履修することが求められますが、まずは、1年次科目がきちんと立案できたので、実際のカリキュラム立案に役に立つものと思われま

す。大学教育の問題点と対応策の検討では、学生の質、教務、高大接続、社会のニーズとの差、などがキーワードとなりました。学生FD委員会とのSGDでも学生の質がテーマとして取り上げられ、活発に意見交換されました。時間の関係で対応策を練るところまではできませんでしたが、共通の課題を意識しながら、今後の教員活動を進めていただけるものと期待しております。

土曜日を2週にわたって行ったので、その間の時期に、大学教育に関する小論を読んでいただき、感想をお寄せいただきました。いずれも力作であり、積極的にWSに参加いただいたことが良く表れておりました。

本ワークショップでは、個別の報告書の提出を求めておりません。ワークショップは非常にタイトなスケジュールで進行するので、実施中にはじっくり考えをまとめることができず、報告書を作成する意義は、終了後に個別に振り返りの時間を設けることにあります。その点を省略したのは、大変残念なことですが、学生指導等で大変多忙な状況であるので、参加者の皆様には当日の成果とアンケート結果をまとめた本報告書の内容をじっくりお読みいただきたいと思います。

本学薬学部は長期実務実習のためのワークショップ、指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ、全学合同のFDワークショップ、学生のミニワークショップなど様々なワークショップを実施しております。これらを独自に企画、立案、実施するためのスタッフ、ファシリテーターも実践を通じて育てております。今回のWSもこれらの先生方の協力があって実施できました。この組織を活用し、今後も様々な形のワークショップが広がっていくことを期待しております。新入教員の先生方にも、タスクフォースに加わっていただくことを期待いたします。

文責 タスクフォース 大野尚仁

